

1. 活動名 わたしたちのようちえん「おうちの人と一緒に園庭整備」

2. 子どもの姿

〈現在の子どもの様子〉

- ・5月25日に、卒園児の保護者の方や在園児の保護者の方に呼びかけて園庭整備の日を設けた。保護者の方は園庭の草引き、花壇の植栽をしてくださり、年中児や年長児は保育者の働きかけをきっかけに、草を抜く、抜いた草を集める、土の中から出てきた虫と関わるなどの姿が見られた。その後植えたばかりの花壇の花を取ってしまった園児の姿をきっかけに、花壇の中の花でも遊びに使ってよい花があること、花のためにも摘んだりハサミで切ったりしてよい花があることを伝えたことで、それらの花を使って工夫して遊ぶ姿も見られた。
- ・片付けなど自分が使っていないくても、また、ほかの学年が使った遊具でも、友達と協力して最後まで片づける姿があり、6月中旬には歳下の子どもたちや自分たちのためにプールの掃除を積極的に行う姿が見られた。
- ・2学期に入ってからは気の合う友達以外の友達の考えやイメージがわかり、その中で自分のしたいことを見つけて遊ぶようになってきており、遊びのイメージや目的を共有できる、人数の許容が広がり始めている。また、気の合う友達、好きな遊びが同じ友達といることが楽しかった1学期から、より多くの友達がいることの楽しさを感じ始めており、これまでの気の合う友達との関係が築かれているからこそ、新しい友達の輪と一緒に入っていくことが楽しくなっている。
- ・今までかかわりの少なかった友達の様子にも目が向き、興味を示すようになり、「やってみよう」「仲間入りしてみよう」とするようになってきており、クラスのみんなで活動することに対して、自分なりの楽しみを見つけてかかわろうとしている。

〈目指す親子の姿〉

- ・自分たちの幼稚園の環境に関心をもつ
- ・自分たちが心地よく過ごせるように、先生やおうちの方が整備してくれていることに気づく。
- ・自分たちも何かできることはないか考える
- ・自分たちが心地よいことは、自然物にとってはどうだろうかという視点をもつ
- ・園庭整備を通して保護者が子どもの姿をよく知る 保護者が意識し時期が来たら子どもに伝える

3. 活動の目標

子ども

- 園内整備をする必要性を知り、園内の様子に関心をもつ。(知識及び技能の基礎)
- 自ら園庭整備に参加する。(学びに向かう力・人間性など)
- 引いた草や草の根っこに関心をもち、引きやすい草と引きにくい草があることを知る。(知識及び技能の基礎)
- 園庭整備用具の使い方を知る。(知識及び技能の基礎)

○自分で整備する場所や内容を考えたり、自分なりに用具の使い方などを工夫して整備したりする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)

○友達の姿に関心をもったり、協力したりしながら園庭を整備する。(学びに向かう力・人間性など)

○引いた草がたい肥になることを知る。(知識及び技能の基礎)

保護者

○ほかの保護者や、わが子以外の子どもと協力して園庭整備を行う。

○我が子や我が子以外の子どもの姿を知ったり、認めたり(褒めたり)する。

○園庭整備を通して園に愛着を持つ。

4. 評価規準

ア知識・技能の基礎	イ思考・判断・表現の基礎	ウ 主体的に取り組む態度
① 園内整備をする必要性を知り、園内の様子に関心をもつ。 ② 引いた草や根っこに関心をもち、引きやすい草と引きにくい草があることを知る。 ③ 引いた草がたい肥になることを知る ④ 園庭整備用具の使い方を知る。	① 自分で整備する場所や内容を考えたり、自分なりに用具の使い方などを工夫して整備したりする ② 引いた草や草の根っこに関心をもち、引きやすい草と引きにくい草があることを知る。	① 自ら園庭整備に参加する。 ② 友達の姿に関心をもったり、協力したりしながら園庭を整備する。

5. 環境構成について

・活動内容の設定理由

1 学期に保護者の方に保育時間中に園庭整備を行っていただき、関心を示して保護者と一緒に草引きや草集めをした子どもたち、および植栽後の花壇やその周辺の植物と関わった子どもたちにいくつかの ESD と関連する姿や育ち※1が見られた。

そこで、より視野が広がってきている年長児を中心に 2 学期にも保護者の方と一緒に園庭整備を行うことにした。

・活動内容

- ・夏休みの園内整備の様子を知る ※2
- ・保護者と一緒に園庭整備をする。

・教材について

- ・夏休み中の園内整備の様子が分かるパワーポイント
- ・整備用具

6. ESD との関連

○本園の教育目標との関連

- ・創造する 幼稚園を安心安全で過ごしやすい環境にするためにできることを考える
考えたことをどのようにして行うかを自分なりの方法を工夫して取り組む
- ・人と共に 友達や友達の保護者の方と一緒に同じ目的に向かって取り組む

- ・地球の中で 自分達の使う場所を当事者意識をもって関わる
初めて出会う自然物や環境に関心をもったり親しみをもったりする。

○活動を通して主に養いたい ESD の視点

- ・多様性:いろいろな草花がある (自分たちにとって不要な草 抜きにくい草=抜かれまいと根っこを張っている)
- ・連携性:友達やおうちの方と協力する
- ・責任性:自分たちの幼稚園と言う意識を持つ

○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

- ・未来像を予想して計画を立てる力:木製遊具が傷まないようにする方法を考える
自分たちが抜いたところに雑草が生えてくることを知る
- ・多面的・総合的に考える力 :整備することで自然物にとっても嬉しいことかどうかの視点を持つ
- ・コミュニケーションを行う力 :友達と保護者の人とことばを交わしながらとりくむ
- ・他者と協力する態度 :友達やおうちの人と一緒に取り組む
- ・つながりを尊重する態度 :引いた草をたい肥にして畑に使う
:自分も周りの人も幼稚園にかかわっていることを知る
- ・進んで参加する態度 :園内整備に積極的に取り組む

○ESD で育てたい価値観

- ・自然環境、生態系の保全を重視する
- ・幸福感に敏感になる 幸福感を重視する

○貢献できる SDGs

17:パートナーシップ

日時 10月9日
 対象 ・年長児
 ・全学年の保護者(任意)
 ・卒園児の保護者(任意)

○草引きが始まる



前日に担任から草引きをすることを伝えていたこともあり、保護者の方が草を引き始め、担任が数名の子どもと一緒に始めると次々と子どもたちが集まってきて、ほぼ全員の子もたちが自ら参加した。

一人で加わる子ども、友達と加わる子ども等様々であったが、いざ草を引き始めると、それぞれに草を引くことに夢中になる姿が見られた。

(進んで参加する態度)

※この時期の子もたちには、今までかかわりの少なかった友達の様子に目が向き、友達の遊びに興味をもって参加したり、みんなでする活動に自分なりの楽しみを見つけて関わろうとしたりする姿が見られていた。この育ちがあったからこそ、ほとんどの子どもが自ら参加したと思われる。

○草引きへの興味関心



草をむしる



根っこから抜きたい!



根っこに関心

見て!こんなに長くつながってる



雨上がりで、比較的、草を引きやすい状態だったことから、しばらくは素手で草を引く姿が見られた。草引き範囲には様々な雑草が生えていて、葉の部分だけを引きちぎる子どももいたが、根っこから抜ける面白さに気づいた子どもは、草の根元を持って引いていた。また、チカラシバは力加減に気を付けると、途切れずにかなり長い根っこを抜くことができるので、ちぎれずに抜けた時には、かなりの達成感を味わっているようだった。いずれの子もたちも根っこをから抜く、たくさん抜く等自分なりの目当てを持って引いていたので、根気良く取り組む姿が見られた。**(進んで参加する態度) 多様性**

※いろいろな場所で草を引いた子どもは、草や根っこの多様性に気づくことができたとと思われる。草の種類による葉や根っこの違いに気づく力や知的好奇心の育ちが多様性に気づくための基盤であると思われる。

好きな遊びに夢中になる、自分で決めた目的に向かって根気強く取り組む、という力が育っていることが基盤であるが、草引きという活動そのものの魅力も大きい。

○道具への関心



次第に保護者の方が使っている道具に関心を示して、保護者が使っている道具を貸してもらって使う姿が見られはじめた。保護者の方が使い方を教えている姿も見られた。

用務員さんがこの日のために用意した道具に気づいて、じっくり見たり、手にしたり、「これ使いたいな」「どうやって使うのかな」「これ抜けそうやな」など子ども同士で道具について話したりしながら、それぞれが道具を選んでいった。

○コミュニケーションを行う力 ○批判的に考える力

※草を引くという共通の目的があることで、日ごろかかわりのない保護者とも草を引くことにかかわる話題や道具を貸してもらおうというコミュニケーションを取ることができたと思う。

また、草を引くことに対してそれぞれが目的を持っていたことで、様々な道具に関心が向き、自分の目的に合う道具を選ぶことにつながった。

○道具の使い方の工夫



自分で選んだ道具を駆使しながら草を引く姿が見られた。道具の持ち方や力の入れ具合を加減するなど、扱ひ方が洗練されていった。道具そのものを持ちかえて試す姿も見られた。中には珍しい道具を使うおもしろさに夢中になって、草を引`ずにその道具で土を掘ることを楽しんでいるう`どももいた。**○批判的に考える力**
 ※目的がはっきりしていることから、すぐに成果も出やすく、試行錯誤する姿につながった。道具は簡単に扱えないところが子どもたちにとっての魅力となっていた。

○草を集める



草を集める作業に自分から取り組む子どもも見られた。草がまとめられているところを自ら見つけて、何度も運んでいた。その際に、リヤカー、トライ、バケツなど日ごろ自分たちが使い慣れている道具を使う姿も見がれた。**○批判的に考える力 進んで参加する態度**
 ※活動に対して自分で目的や楽しさを見つけられる力や使い慣れている道具を目的に合わせて使う力が育っている。これらの力が批判的に考える力につながると思われる。

○いろいろな保護者との関わり



自分のおうちの方が参加していない子どももたくさんいたが、草引きが進むにつれて、園児と保護者がかかわる姿が増えていった。初めは自分のお母さんや友達のお母さんとかかわる姿が多かったが、次第に全く知らない保護者の方と関わる姿が見られた。園児が道具の使い方を聞く、保護者の方が草引きをする姿を認める声をかける、「この草は抜きにくい」など草引きについて会話を、などが見られた。園児がそばに来ると積極的に話しかけてくださる保護者の方が多かった。**○コミュニケーションを行う力**
 ※前述したように、草引きと言う共通の目的がコミュニケーションを促進した。保護者にとっては、子どもたちを認める言葉をかけやすく、認めてもらった子どもはその保護者に親しみをもち、そこからコミュニケーションが生まれたと思われる。

○友達と協力



草を集める活動では、自然に子どもたちが集まっていた。リヤカーを中心に一緒に引っ張ったり、ついていって草を一緒に集めたり、回収ケースと一緒に入れたりなど、自然に役割が分担されており、その時には「そっち、もって」「こっちに行こう」「まだあるよ」など協力して草を集めるための言葉が交わされていた。○他者と協力の態度 ○コミュニケーションを行う力 連携性
※子ども同士も、保護者と子どもも、共通の目的があることが他者と協力の態度につながっている。協力するために会話が必要であり、コミュニケーションを行う力につながっていると思われる。目的を共有する力、言語能力の育ちが基盤となっていることは言うまでもない。

○最後の片付け



放送の合図で、草引きが終了し、残っている草を集めたり道具を片付けたりした後、園児は保育室に、保護者の方は遊戯室に向かった。誰から言われるでもなく草引きの範囲を示すためのコーンを集める女児がいた。責任制
※まさしく責任制をしめず行動である。この児は日ごろから大人の行動をよく見ている。

○ご褒美?のおやつを食べよう!

保護者の方には遊戯室で休憩を取っていただいた。飲み物やおかきやクッキーなどのおやつを食しながら、保護者同士がコミュニケーションを取れる場となるようにした。3、4人の年長児がその様子を覗きにきていた。そこで、年長児の子どもたちにも急きょおやつを用意した。おやつを保育室にもっていき、草引きを頑張ったことへのお礼と賞賛の言葉、そしてお礼のおやつであることを伝えると大歓声が上がった。一人3個のおやつをにぎやかに、嬉しそうに食べていた。○コミュニケーションを行う力 連携性
※園でおやつを食べるのが初めてということもあったが、頑張ったからおやつを用意されたということに対する喜びであり、一層、達成感を味わえたのではないかな。

【成果と課題】

【成果】

●子どもにとって(上記に示したところと重なる)

- ・草引きの必要性を理解し自ら活動に参加したことで、自分なりの見通しを持ち(未来を予測して計画を立てる)進んで参加する態度が養われた。
- ・様々な場所の草を引くことを通して、葉や根っこの違いに関心を持ち、面白さを感じたことで、植物の多様性に気づききっかけとなる経験ができた。
- ・道具を使うこと、草を引くことのおもしろさから、それぞれが意欲的に目的を持って取り組んだことで、草の引き方、

道具の使い方など自分なりの方法を工夫したり、試行錯誤したりすることができた。幼児なりの批判的に考える力の基盤となる経験につながった。

- ・草引きという共通のわかりやすい目的を共有して活動したことによって、クラスのいろいろな友達や日ごろ接することのない保護者とも協力する態度やコミュニケーションを行う力が養われた。
- ・周りの大人に認めてもらうことで、自分の行動に自信を持ったり、まわりの誰かの役に立っていることに気づいたり、そのことに喜びを感じたりする経験ができた。

●保護者にとって

- ・わが子以外の子どもと接することで、様々な子どもがいることを知る機会となった。そのことはわが子のことを客観的に捉える機会にも立ったと思われる。
- ・大人も子どももみんなで協力して、活動をやり遂げる心地よさを味わうことができた。そのプラスの感情が、園の様子や子ども保育に関心を持つことにつながると思われる

●保育者の学び

○日ごろの子どもの育ちが基盤であること

今回の活動は、年長のこの時期の子どもたちの姿に合致していた。だからこそ、上述で示した、この活動を通して育みたいと考えていた ESD で重視する能力や態度につながる姿が多く見られた。この活動を計画し、その時の姿を ESD の視点で振り返ることで、改めて、保育者が活動を提示する時には、日ごろの育ちを把握していることが重要であることが分かった。

○目的のわかりやすさ

保育者が提案した活動であることから、目的が分かりやすかった。目的のわかりやすさが、園児同士や園児と保護者のコミュニケーションや協力につながった。

○保護者と一緒にする活動

保護者とともに活動をするため、珍しい用具を使う体験や、親ではない大人から認めてもらうという日頃できない経験ができた。そのことによって ESD で重視する能力や態度を育むことを促進されたことを実感した。

○自分のおもしろさや楽しさが誰かのためになること

今回の活動は、誰かのためになる「お仕事」的な活動であるが、園児にとっては遊びの延長線上にあり、それぞれが自分なりのおもしろさや楽しさを見つけていた。裏を返せば、園児にとっては面白く楽しい活動であり、だからこそ積極的に参加し意欲的に取り組むことができ、その結果が誰かのためになった。さらには自分たちが面白がってやっている行為を周りの大人がほめてくれた。幼児が周りの出来事を自分ごとにするためには、面白さや楽しさ主体性が重要である。幼児期に今回のような経験を積み上げることが、やがては遠くの誰かのために自分ができることを考え、自ら行動を起こすことにつながると思われる。

【課題】

○活動に ESD の視点が足りない

保育構想案を検討した時に、引いた草をたい肥にすればよいのではないかとアドバイスをいただいたにもかかわらず、実践できなかった。保育者がもっと ESD の知識を学ぶ必要があることは当然のことながら、学んだ知識が保育者の意識変容に至っていないことが要因である。ESD の視点で保育を計画し、子どもにかかわれるようになるためには、保育者自身の意識変容が重要であることを再認識した。

○保護者の意識変容を把握できなかった

今回の活動は保護者の価値観の変容もねらいとしていた。しかし、子どもの姿を把握することに精一杯で保護者の様子の詳細は把握できなかった。今後

<目指す子ども像>

創造する

目的に向かって自分なりの考えや方法を生み出す子ども

人とともに

ありのままを分かり合い、活かしかい、分かち合う子ども

地球の中で

身の回りのものやできことに親しみや愛着の気持ちを持ち、自分ごととして捉え積極的にかかわる子ども

【おうちの方と一緒に園内整備(園庭の草引き)をする(10月9日)】

- 子ども ○園内整備をする必要性を知り、園内の様子に関心をもつ。(知識及び技能の基礎)
 ○自ら園庭整備に参加する。(学びに向かう力・人間性など)
 ○引いた草や草の根っこに関心をもち、引きやすい草と引きにくい草があることを知る。(知識及び技能の基礎)
 ○園庭整備用具の使い方を知る。(知識及び技能の基礎)
 ○自分で整備する場所や内容を考えたり、自分なりに用具の使い方などを工夫して整備したりする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
 ○友達の様子に関心をもったり、協力したりしながら園庭を整備する。(学びに向かう力・人間性など)
 ○引いた草がたい肥になることを知る。(知識及び技能の基礎)
- 保護者 ○ほかの保護者や、わが子以外の子どもと協力して園庭整備を行う。
 ○我が子や我が子以外の子どもの姿を知ったり、認めたり(褒めたり)する。
 ○園庭整備を通して園に愛着を持つ。

この活動で育みたい ESD で重視する **能力・態度** につながる具体的な子どもの姿と幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

○コミュニケーションを行う力

・友達や保護者や友達の保護者と草や用具について会話し、協力するために自分の考えを伝えたりする。
 (言葉による伝え合い、協同性)

○未来像を予測して計画を立てる力

・園庭整備をする必要性を知る。
 ・たい肥になる様子に関心をもち、たい肥を自分たちの畑に使う。
 (自然とのかかわり)

○批判的に考える力

・草を引くという目的のために用具を選んだり、使い方を工夫したりする。(思考力の芽生え)

○進んで参加する態度

・保護者の方や友達が園庭整備をする様子を見て、自ら参加し意欲的に取り組む。
 (自立心、協同性、社会生活との関わり)

○他者と協力する態度

・友達や保護者と協力して草を引いたり、引いた草を集めたり運んだりする。
 ・友達がやっている方法に共感したり真似たりする。
 (協同性、言葉による伝え合い)

○つながりを尊重する態度

・引いた草をたい肥にして畑に使う。(自然との関わり)
 ・自分たちも周りの人も幼稚園にかかわっていることを知る。

保護者にこの活動を通して触れてほしい ESD で重視する **価値観**

多様性

同じ活動をする中でいろいろな考えの大人や、いろいろな発達や性格の子どもがいることを知る。

責任制

前回の園庭整備後、夏休みを経て園庭の状態が変化していることに気づき、今回の整備後にも園庭の様子に関心をもつ。

連携性

保護者も子どもも協力して園庭を整備する。

公平性

保育者が公平な態度で子どもと接し、個々の子どもに合わせて関わっている姿を見る。

ねらい(10月~)

- 創造する たくさんの友達の思いや考えに触れて、自分の思いや考えを広げる。
 人と共に これまでの気の合う友達の枠を超えて、いろいろな友達とかかわることの楽しさや良さを感じる。
 地球の中で 自分の身の回りに視野を広げ、行事などやみんなと一緒にする活動に思いをもって積極的にかかわる。

<9月の子どもの姿>

創造する

○気の合う友達以外の友達の考えやイメージがわかり、その中で自分のしたいことを見つけて遊ぶようになってきている。
 ○遊びのイメージや目的を共有できる、人数の許容が広がりはじめている。

人と共に

○気の合う友達、好きな遊びが同じ友達ということが楽しかった1学期から、より多くの友達がいることの楽しさを感じ始めている。
 ○これまでの気の合う友達との関係が築かれているからこそ、新しい友達の輪と一緒に入っていくことが楽しくなっている。

地球の中で

○今までかかわりの少なかった友達の様子にも目が向き、興味を示すようになり、「やってみよう」「仲間入りしてみよう」とするようになってきている。
 ○クラスのみんなで活動することに対して、自分なりの楽しみを見つけてかかわろうとしている。

<活動につながる姿や経験>

5月25日 保護者との花壇や園庭の整備
 その後の遊び(花壇の花を使って色水やごちそう、花手水)での経験
 色々な大人との関わり 友達との関わり
 最後までやり遂げる 感謝される喜び 自然物との関わり
 植物の見方考え方の変容 豊かな表現 感性 発見 異年齢の交流

ESD の観点

世代間の交流 世代内の交流 生態系保全 自然とのかかわり 幸福感

9月1日 始まりの会 PP「夏休み中の幼稚園は?」を見る
 その後の姿(→)

- ・園庭の草が伸びている様子
- ・虫が生息できる場所を残して草を刈る用務員さん
 →草むらに虫探し
- ・花の世話や飼育物の世話をする先生→花壇に関心
- ・カブトムシの糞を花壇に捨てる Y 君(預かり保育)
 →Y 君と一緒に糞をまく A 児 K 児